

風のたより 4月号

うらかな春の日和となりました。皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症も5類になって、居室での面会が可能となり、ご家族様とご入所者様の触れ合いが再開できたことを、スタッフ一同喜んでいただいております。

さて、風の家では毎年、各部署の先人者がその年の反省点と翌年度に向けての目標を作成します。それに基づいて作成した令和6年度の事業計画（基本方針）をご紹介します。

1. 介護の質の向上

(1) 基本理念を職員全体が理解し、共有できるよう、周知徹底を図ります。

施設長が中心となり、基本理念を再確認し、職員全体が、基本理念を柱とした共通の目標に向かって進んでいるという連帯感を持つことができるようにします。

職員全員が、自分の言葉で基本理念を語るができるようになることを目標とします。

(2) 利用者の「納得いく人生」を支援するため、個々のADL（日常生活動作）・ニーズに即応した支援・ケアを心掛け、落ち着いた暖かい雰囲気を整え、気力、体力、認知症に伴う精神面の低下に配慮しつつ、多職種間の連携のもと事故防止に努めます。

(3) 一番の課題である人材確保に努めます。

「魅力ある職場」とは、働きやすく働きがいのある職場であると考えます。「働きやすさ」「働きがい」の意識を高めるために、「職場の中で自分が期待され役立っている」という意識が持てるような雇用管理を行っていくと同時に、上司とのコミュニケーションを促進させるため、「相談できる体制」を整えます。

(4) ICT や介護度ロボットなどを活用した生産性の向上に努め、業務負担の軽減や環境の改善など働き易い、やりがいのある職場を創出し、人材の確保と育成、やる気ある人材の定着を図ります。

(5) 「介護助手」の導入で、介護職員の業務の一部をサポートし、介護職員が専門性の高い業務に専念できるよう、環境を整えます。

(6) 利用者のことを語り合うことで、結果的に職員間の良好な人間関係が成立するよう、職員間の調整を行います。他職種はもちろん、ユニット・ブロックの介護職員間でも日常的な情報交換と、組織立った情報交換を推進します。また、嘱託精神科医を活用し、利用者に対する見方、考え方を鍛錬するカンファレンスを行います。

(7) 職員の腰痛予防及び利用者の二次障害予防のため、「ノーリフティングケア（持ち上げない・抱えない・引きずらないケア）」の取り組みを継続します。昨年度までは、主に介護職員を対象としたノーリフティングケアの取り組みを行っていましたが、今年度はその他の職種（看護・厨房・事務・営繕）にも目を向け、問題抽出を行いながら取り組んでいきます。

(8) 介護・看護等の専門職の職員である以前に、社会人としての常識やモラルをわきまえ、プロとして恥ずかしくない職務を心がけます。また、職員の言動について、虐待防止の視点から各人が自己洞察し、かつ共有できる場を定期的に設定します。

2. 家族対応の充実

新型コロナウイルス感染症の予防の為、面会制限下で職員が家族と接する機会が減少していましたが、5 類になって居室での面会を再開し、制限も随分緩和してきました。これからは、コロナ禍前よりもコミュニケーションを密に図り、これまで気薄になってしまった信頼関係を取り戻します。

3. 食事サービスの充実

- (1) 利用者の状態（病状・摂食機能など）や嗜好に合わせた食事の提供をきめ細やかに行います。特に、嚥下等に困難のある方用の食事（介護食）に力を入れ、既成のものを使うのではなく、利用者個別に対応するため、手作りのものを提供できるよう努力を続けます。
- (2) 「おいしい食事」の提供にこだわり、工夫を続けます。
- (3) 季節などに合わせた行事食の提供に力を入れます。

4. 感染症対策の充実

- (1) 各種感染症に対して、利用者・職員の体調管理や消毒作業等の感染防止対策を継続します。
- (2) 各種感染症に対しての発生状況等の情報収集を行い、行政からの指示に対的確に対応します。
- (3) 業務継続計画に基づき、感染症発生時の訓練を定期的に行い、感染症の拡大（クラスター化）防止に努めます。

5. 管理体制の充実

- (1) 施設内規則、業務手順を明文化し、周知徹底します。
- (2) マニュアルは、適宜見直しを行い、常に適切な内容に改めます。
- (3) 感染症発生時及び非常災害発生時の業務継続計画を適宜見直し、有事における利用者の安全と安心を担保します。
- (4) 施設の老朽化に対応し、外壁補修や防水工事等の大規模修繕を行います。また、その他必要な修繕や備品の買い替え等も、適切な時期に行います。

6. 経営の効率化

- (1) 各サービスの稼働率を上げるよう努めます。
- (2) 必要経費の見直しと介護報酬の効率的な運用を継続します。
- (3) ICT や介護ロボット等を活用した生産性の向上を進めます。

7. 施設からの情報発信

HP（ホームページ）や SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を通して、施設の情報や考え方、日常の風景などを積極的に発信します。

この事業計画のもと、職員一同、日々努力してまいります。今年度もよろしくお願ひいたします。